

科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日	科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日
社会学原論	<秋集>		SOC1320	水1・金2					

**【教員氏名】**

宮本 孝二  
 ・研究室：聖アンデレ館10階1001号室  
 ・オフィスパワー：月曜日3時間目  
 ・メールアドレス：

**【単位数】**

4 単位

**【授業形態】**

『講義』

**【講義・演習概要】**

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

**【学習（到達）目標】**

社会学は専門分化が高度化し、個別の分野では大量の知識が生産されているが、それを学ぶだけでは、個別具体的な知識を超えた一般化する力や、部分的な特殊な知識を全体的な視野でまとめあげたり適切に位置づけたりする力は修得困難である。この講義の学習目標は、個別具体的な部分的な特殊な現象を超えて、あらゆる現象に見出せる一般的な概念とその体系、そしてあらゆる現象を包括している全体的な視点について学ぶことによって、まさに一般化する力と全体化する力を獲得するところにある。

**【講義・演習計画】**

- 第1回：社会学原論とは何か：社会理論の全体像
- 第2回：人間の特性（1）意味づけ
- 第3回：人間の特性（2）資源動員
- 第4回：社会の形成（1）動物的群れから人間社会へ
- 第5回：社会の形成（2）国家の形成、伝統的国家、近代化
- 第6回：社会理論における相互行為論の位置
- 第7回：コミュニケーションの社会理論（1）ミード
- 第8回：コミュニケーションの社会理論（2）ゴフマン、ガーフィンケル、シュッツ
- 第9回：サンクシヨンの社会理論（1）組織論
- 第10回：サンクシヨンの社会理論（2）バーソンス
- 第11回：エクステンションの社会理論（1）互酬性
- 第12回：エクステンションの社会理論（2）ブラウ、ホマンズ
- 第13回：コンフリクトの社会理論（1）ダーレンドルフ、コーザー
- 第14回：コンフリクトの社会理論（2）パワーと運動
- 第15回：構造という視点
- 第16回：構造主義とポスト構造主義
- 第17回：国民国家の構造とエリート論
- 第18回：階級・階層構造と変動
- 第19回：場と全体
- 第20回：近代化と現代社会論
- 第21回：戦後日本社会と現代社会論
- 第22回：1970年代以降の世界（1）民活民営化
- 第23回：1970年代以降の世界（2）第三の道
- 第24回：認識論・方法論としての社会理論
- 第25回：近代の社会理論家たち（1）コントからデンニースまで
- 第26回：近代の社会理論家たち（2）ウェーバー、デュルケム、ジンメル
- 第27回：現代の社会理論家たち（1）ブルデュー、ギデンズ
- 第28回：現代の社会理論家たち（2）ルーマン、ハーバーマス
- 第29回：まとめと補足（1）第1回から第14回まで
- 第30回：まとめと補足（2）第15回から第28回まで

**【成績評価の方法】**

試験評価：100% レポート：0% 出席：0%  
 学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

**【テキスト】**

宮本孝二：『社会理論25講』（八千代出版）

**【参考文献】**

各回の講義内容の要点を記載した資料集を配布する。また、必要な文献はその都度、紹介する。

**【事前および事後学習の指示（事前学習 60 時間 事後学習 60 時間）】**

当然ながら予習・復習が不可欠。各回の講義内容を記載した資料集を配布するので、毎回の該当箇所を予習で一読、講義を聴講した後、復習で一読すれば一層効果的である。